人と環境 Vol. 8: 1－6 (2015)

【短　報】

短大における童謡創作の実践についての考察
～受講生へのアンケート調査を通して

金 井　秋 彦*

大阪信愛女学院短期大学

Study on the Creation of Children's Songs at Junior College (Through a Survey of the Students)

Akihiko Kanai

Human and Environment Vol. 8 (2015)

短大における「童謡創作」の実践方法を見直すため、過去の全受講生を対象にしたアンケート調査を行い、その分析を通し、童謡創作のより良い実践方法についての考察を行った。アンケート調査の主たる目的は、受講生それぞれが童謡創作の各作業段階においてどれだけの困難度を感じていたかを調査することであった。アンケート調査後にデータ分析をしてみると、困難度の数値は受講生それぞれの音楽経験と密接な相関関係があることがわかった。つまり、全受講生を音楽経験の多いグループと少ないグループに分け、その両者の困難度を比較すると、音楽経験の少ないグループのほうが圧倒的に困難度が高かったのである。授業で指導する際に実感していたことが、アンケート調査のデータによっても裏付けされた。また、受講生が作成した童謡詩のテーマにはどのような傾向があるのかも調査し、その結果として、自分の体験とは離れた空想的な世界や独創的な物語をテーマとした童謡詩が最も多く、次いで自分の体験に基づく童謡詩の多いことがわかった。

キーワード：童謡創作・実践方法・アンケート調査・困難度・音楽経験

１．はじめに

短大における「童謡創作」の授業は、前任者によって長く本学で行われてきた取り組みである。数年間の未開講期間を経て、平成 23 年度より前任者の後を受けて筆者がその授業を担当し、今年度で 4 年目になる。

4 年間授業を担当するなかで、受講生が童謡創作のそれぞれの段階でどのように感じながら自分の作品創作に取り組んでいるのかを常に知りたいと思っていたが、なかなか全体への意識調査をする機会を持てなかった。

今回、4 年間の全受講生を対象にしたアンケート調査を初めて実施し、受講時の意識調査を行うことができた。その集計結果を分析することにより、これまでの授業方法を客観的に捉え、今後の童謡創作の指導に活かせる手立てを探ってみた。また、これまでの授業では、童謡創作の各作業を行うなかで、受講生によってかなり進捗状況に差異が生じてしまっていた。その問題に対応するため、受講生の感じる困難度と受講生の音楽経験との間に相関関係があるのかどうかも調査してみた。

２．研究方法

本授業では、童謡の創作を「①童謡詩の創作」、「②歌の旋律の作曲」、「③ピアノパート(前奏・間奏・後奏)の作曲」の 3 段階に分け、①から順に段階を踏んで取

*大阪信愛女学院短期大学子ども教育学科
〒538-0053　大阪市鶴見区鶴見 6-2-28
E-mail: akanai@osaka-shinai.ac.jp

受付：2015 年 2 月 16 日、受理：2015 年 2 月 28 日
©2015 大阪信愛女学院短期大学

表１　アンケートの内容および結果

『童謡創作(音楽理論)』の授業では、童謡を創作する際、 ①童謡詩の創作 → ②歌の旋律の作曲 → ③ピアノパート(伴奏、前奏、間奏、後奏)の作曲の３つの段階に分け、①から順番に取り組みながら、各自１曲の童謡を完成させました。それぞれの段階でのあなたの取り組み状況、及び印象をお尋ねします。	
【問１】	童謡詩を作る際、＜項目Ａ＞～＜項目Ｃ＞のそれぞれについて、あなたが感じた難易度を教えて下さい。難易度は次の選択肢の５段階とし、項目ごとに１つ選び、(　) 内の番号を〇で囲んで下さい。 （選択肢）1. とても易しかった　2. やや易しかった　3. どちらとも言えない　4. やや難しかった　5. とても難しかった ＜項目Ａ＞詩の題材(テーマ)を見つけること　　(1. 2. 3. 4. 5.) ＜項目Ｂ＞自分の表現したい内容にピッタリ合う言葉を見つけること　　(1. 2. 3. 4. 5.) ＜項目Ｃ＞１番と２番の歌詞スタイルを合わせるため、字数を揃えることを意識しながら作ること　(1. 2. 3. 4. 5.)
【問２】	【問１】の＜項目Ａ＞～＜項目Ｃ＞の３つの項目のうち、あなたが最も難しかったと感じたものはどれでしょうか？(　　) また童謡詩を作る際に、これら以外に難しかったことがあれば、具体的に書いて下さい。　(　　)
【問３】	あなたの作った童謡詩の題材(テーマ)は、主に何に基づいたものだったと考えますか？選択肢A～Eより１つだけ選んで下さい。Eを選んだ場合は、選択肢Eの(　)内に具体的に説明して下さい。　(　　) （選択肢） A. 自分のこどもの頃の体験や思い　　B. 幼稚園教育実習、保育実習で こどもと触れ合った時の経験や思い C. 自分の体験とは離れた空想の世界や物語　　D. ２回生の時の自分が感じていたこどもへの願い E. その他（→具体的に説明：　　）
【問４】	歌の旋律を作曲した際、＜項目Ａ＞～＜項目Ｄ＞のそれぞれについて、あなたが感じた難易度を教えて下さい。難易度の尺度は【問１】と同じ選択肢1～5 を使い、項目ごとに１つ選んで(　) 内の番号を〇で囲んで下さい。 ＜項目Ａ＞自分のイメージしたものをメロディとして作曲すること　(1. 2. 3. 4. 5.) ＜項目Ｂ＞思い浮かんだメロディを正しく楽譜に書き留めること　　(1. 2. 3. 4. 5.) ＜項目Ｃ＞詩の言葉のアクセント(イントネーション)を意識してメロディを作曲すること　　(1. 2. 3. 4. 5.) ＜項目Ｄ＞こどもの声域の中に収めるようにメロディを作曲すること　　(1. 2. 3. 4. 5.)
【問５】	【問４】の＜項目Ａ＞～＜項目Ｄ＞の４つの項目のうち、あなたが最も難しかったと感じたものはどれでしょうか？(　　) また、歌の旋律を作曲した際、これら以外に難しかったことがあれば、具体的に書いて下さい。　(　　)
【問６】	ピアノパート(伴奏、前奏、間奏、後奏)の作曲の際、＜項目Ａ＞＜項目Ｂ＞のそれぞれについて、あなたが感じた難易度を教えて下さい。難易度の尺度は【問１】と同じ選択肢1～5 を使い、項目ごとに１つ選んで(　) 内の番号を〇で囲んで下さい。 ＜項目Ａ＞自分の作曲した歌の旋律に合うピアノ伴奏を作曲すること　(1. 2. 3. 4. 5.) ＜項目Ｂ＞前奏や間奏や後奏を作曲すること　(1. 2. 3. 4. 5.)
【問７】	童謡を創作する際の３つの段階（①童謡詩の創作、②歌の旋律の作曲、③ピアノパート(伴奏、前奏、間奏、後奏)の作曲）のうち、あなたが最も困難に感じた段階はどれでしたか？　①～③より１つ選び、記号で答えて下さい。　(　　)
【問８】	授業では和音のことや楽譜の書き方など、様々な音楽理論的な内容も取り入れましたが、それらはあなたの創作に役立ちましたか？　次の選択肢1～5より１つ選んで答えて下さい。　(　　) (選択肢)　1. とても役立った　2. 少し役立った　3. どちらとも言えない 4. それほど役立たなかった　5. 全然役立たなかった
【問９】	童謡を完成させ、あなたは自分の童謡の出来に満足しましたか？次の選択肢1～5より１つ選んで答えて下さい。　(　　) （選択肢）　1. とても満足した　2. やや満足した　3. どちらとも言えない 4. あまり満足しなかった　5. 全然満足しなかった
【問10】	『童謡創作(音楽理論)』の授業では、童謡を完成させた後、短大演奏会での発表の機会を持ちました。発表の機会を持ったことにあなたは満足しましたか？ 選択肢は【問９】と同じです。　(　　)
【問11】	短大卒業後、小学校、幼稚園、保育園関係の仕事に就いた経験のある方に質問します。児童やこどもの前で自分の作品を歌って発表したり、自分の作品をこども達と一緒に歌ったりしたことはありましたか？ あると答えた人は選択肢の(　)内に具体的に説明して下さい。　(選択肢)　1.ある（→具体的に説明：　　)　2.ない
アンケートの集計結果	
【問１】	困難度ポイント平均値：＜項目Ａ＞　2.9　＜項目Ｂ＞　3.8　＜項目Ｃ＞　3.8
【問２】	＜項目Ａ＞22.2%(2名)　＜項目Ｂ＞33.3%(3名)　＜項目Ｃ＞44.5%(4名)
【問３】	A. 33.3%(３名)　B. 11.1%(１名)　C. 44.5%(４名)　D. 11.1%(１名)　E. 0%(０名)
【問４】	困難度ポイント平均値：＜項目Ａ＞　3.7　＜項目Ｂ＞　3.0　＜項目Ｃ＞　3.4　＜項目Ｄ＞　2.8
【問５】	＜項目Ａ＞44.5%(4名)　＜項目Ｂ＞22.2%(2名)　＜項目Ｃ＞22.2%(2名)　＜項目Ｄ＞11.1%(1名)
【問６】	困難度ポイント平均値：＜項目Ａ＞　4.2　＜項目Ｂ＞　4.0
【問７】	①22.2%(2名)　② 11.1%(1名)　③ 66.7%(6名)
【問８】	1. 88.9%(8名)　2. 11.1%(1名)　3. 0%(0名)　4. 0%(0名)　5. 0%(0名)
【問９】	1. 66.7%(6名)　2. 33.3%(3名)　3. 0%(0名)　4. 0%(0名)　5. 0%(0名)
【問10】	100%(9名)　2～5. 各0%(各0名)
【問11】	1. 11.1%(1名)　2. 77.8%(7名)　未回答 11.1%(1名)

り組み、各自童謡を完成させていく方法を採っている。歌詞付き旋律の作曲においては、ポップス界の主流となっている“旋律を先に作曲し、その旋律に合う歌詞を後からあてはめて作る方法”もあるが、受講生には詩の内容やことばのアクセントを意識しながら作曲することを学んでもらいたいため、本授業では、“歌詞(＝童謡

詩)を先に作り、その歌詞に合う旋律を作曲する方法”を採用している。

研究にあたっては、客観的なデータを得るため、過去4年間の全受講生15名へのアンケート調査を実施した。実施時期は 2014 年 11 月中旬から 12 月中旬にかけてである。受講生へ実施したアンケートでは、上で説明した①から③までの段階別の質問を設けた。アンケートの内容は表１のとおりである。詳細については次の 2.1 項で説明する。

なお、アンケート調査を行うにあたって、対象者にはその趣旨・内容を充分に説明し、得られたデータは本研究にのみ個人を特定できない形で使用することも説明し、理解を得た。

2.1. アンケート内容について

アンケートでは、設問へ入る前に、受講生それぞれの短大入学までの音楽経験を尋ねた。具体的には、「鍵盤楽器（ピアノ、エレクトーンなど）の経験年数」、「鍵盤楽器以外の音楽(合唱、吹奏楽など)の経験年数」、「普段から個人的に好きな音楽をよく聴くか？」などの内容である。それらの情報を基にして、音楽経験のグループ分けを行った。

アンケートの設問は、大きく 2 つの内容に分類することができる。ひとつは困難度の調査であり、もうひとつは満足度の調査である。

困難度の調査では、「①童謡詩の創作」、「②歌の旋律の作曲」、「③ピアノパート(前奏・間奏・後奏)の作曲」のそれぞれの創作段階における複数の作業項目の困難度について５段階尺度で回答してもらった。(→アンケート【問１】、【問４】、【問６】) 回答項目については、次のように、困難度が高くなるごとに１ポイント (pt) ずつ上がっていくポイント数を設定し、「困難度ポイント」とした。

1. とても易しかった‥‥1 pt
2. やや易しかった‥‥‥2 pt
3. どちらとも言えない‥3 pt
4. やや難しかった‥‥‥4 pt
5. とても難しかった‥‥5 pt

満足度の調査では、“完成した自分の童謡の出来に満足したか？”、“自分の童謡を短大発表会で発表したことに満足したか？”など、授業で取り組んだことに対して受講生自身がどれくらい成果を感じているのかを次の５段階尺度で回答項目を設定した。

1. とても満足した
2. やや満足した
3. どちらともいえない
4. あまり満足しなかった
5. 全然満足しなかった

2.2. アンケートの集計について

アンケートは4年間の全受講生15名を対象に実施し、そのうち回答のあった 9 名のデータを集計し、分析素材として用いた。

困難度に関する設問の集計にあたっては、回答のあった受講生を音楽経験の多いグループと少ないグループの 2 つに分け、グループごとに各項目の困難度ポイントの平均値を算出した。平均値の算出にあたっては前項 2.1 で触れたポイント数を用いた。平均値のポイント数が高いほど困難度が高いことを表している。音楽経験の多いグループと音楽経験の少ないグループの困難度ポイントの平均値を比較することにより、困難度と音楽経験の間に相関関係があるかを検証した。

３．結果と考察

アンケートの集計結果は表１のとおりである。以下この内容に基づき結果の分析及び考察を行う。

3.1. 困難度の集計結果とその考察

困難度に関する設問の集計結果は、表２のとおりである。

回答のあった全受講生の困難度ポイントの平均値を項目別に見比べると、①-Ａから③-Ｂまでの 9 項目のうち、最も困難度ポイントが低かったのは平均値 2.8 の②-Ｄであり、最も困難度ポイントが高かった項目は平均値 4.2 の③-Ａであった。③-Ｂも困難度ポイントの平均値が 4.0 であり、「③ピアノパートの作曲」の創作段階では 2 項目とも困難度ポイントの平均値が 4 以上になっている。これらの作業は受講生にとってかなり難しい作業であることがわかる。

次に、音楽経験の多いグループと音楽経験の少ないグループの困難度ポイントの平均値を、作業項目ごとに比較してみた。授業で童謡を創作する際の 3 つの段階のうち、言語分野である「①童謡詩の創作」では、①-Ｂと①-Ｃのように音楽経験の多いグループのほうが困難度ポイントが高くなっている項目がある。この 2 つの項目では、語彙がいかに豊富であるかが作業を進める上で有利に働く。つまり、自分の表現したい内容をうまく表現できる豊かな言語力があって、文学センスに長けていることが重要となるため、この分野では音楽経験の多さは直接的にはほとんど影響しないといえる。それゆえ、この結果であっても不思議ではないのである。

一方、音楽分野である「②歌の旋律の作曲」と「③ピアノパートの作曲」の創作段階では、②-Ｄのみ両グループ共に同じ平均値 2.8 で並んでいるが、それ以外の 5 つの項目はすべて音楽経験の少ないグループのほうが困難度ポイントが高くなっている。つまり、音楽経験の少ないグループのほうがそれぞれの項目を難し

表２　困難度のアンケート調査結果

回答のあった受講生……9 名 うち、音楽経験の多い受講生……5 名 音楽経験の少ない受講生…4 名	困難度ポイント(pt)		
	回答のあった全受講生の平均値	音楽経験の多いグループの平均値	音楽経験の少ないグループの平均値
①　童謡詩の創作			
・①-A 詩の題材(テーマ)を見つけること	2.9	2.6	3.3
・①-B 自分の表現したい内容にピッタリ合う言葉を見つけること	3.8	4.0	3.5
・①-C 1 番と 2 番の歌詞スタイルを合わせるため、字数を揃えることを意識しながら作ること	3.8	4.0	3.5
② 歌の旋律の作曲			
・②-A 自分のイメージしたものを旋律として作曲すること	3.7	3.2	4.3
・②-B 思い浮かんだメロディを正しく楽譜に書き留めること	3.0	2.2	4.0
・②-C 詩の言葉のアクセントを意識して旋律を作曲すること	3.4	3.2	3.8
・②-D こどもの声域の中に収めるように旋律を作曲すること	2.8	2.8	2.8
③ ピアノパート(伴奏、前奏、間奏、後奏)の作曲			
・③-A 自分の作曲した歌の旋律に合うピアノ伴奏を作曲すること	4.2	3.8	4.8
・③-B 前奏や間奏や後奏を作曲すること	4.0	3.6	4.5

く感じているということであり、音楽経験を積んでいるほうが創作行為を容易に行いやすくなることがデータによって裏付けられたことになる。すなわち、受講生の感じる困難度と音楽経験の間には相関関係があると結論づけることができる。

さらにもっと詳しく 2 つのグループを比較するため、両者の平均値の差に注目してみたい。最も両グループの差が開いている項目は②−Ｂであり、平均値の差が 1.8 もある。思い浮かんだメロディを正しく楽譜に書き留める能力は音楽経験を積む過程で身につくものである。その能力が備わっていなければ②−Ｂはかなり難しい作業である。まさに音楽経験を多く積んでいるほうがやり易い作業であり、そのことをこのデータは物語っている。その次に両グループの差が開いている項目は、1.1 の差が出ている②−Ａである。音楽経験の多いグループの中には、専門的ではないものの遊び程度に作曲をした経験のある受講生が 3 名おり、そのあたりも 1.1 の差が開いたひとつの原因であろう。自分のイメージするものを音化していく作業である旋律の作曲も、やはり音楽経験が重要になってくるといえる。

以上のように、音楽分野の困難度は音楽経験と密接な関係があり、音楽経験が少ないと、音楽分野の作業困難度が高くなることがわかった。このことは授業で指導する際にも実感していたことではあるが、今回のアンケート調査のデータによっても裏付けされた。

3.2. 満足度の集計結果とその考察

満足度については、まず、完成した自分の童謡の出来を、前項 2.1 で説明した 5 段階評価によって答えてもらった。(→アンケート【問９】)「とても満足した」66.7%(6 名)、「やや満足した」33.3%(3 名)が全体の 100%を占め、受講生全員が自分の創作した童謡に対して満足していた。受講生のなかには、創作過程でかなり悪戦苦闘した者もいたが、その苦労の先で満足できる結果を得られたことは本人にとって良い経験になったことと思う。指導者としてもこの結果は嬉しいことである。

次に、完成した自分の童謡を短大演奏会で発表したことに対する満足度を尋ねたところ、「とても満足した」と回答した者が 100%(9 名)に達した。(→アンケート【問１０】) 受講生は、自分の童謡を完成させたことに対する満足感だけでなく、その作品を発表して第三者に聴いてもらえた満足感を強く感じていることがデータからもよくわかる。やはり、創作の喜びには、創作する行為自体から生まれる喜びだけではなく、それを演奏することによって他人へと伝える喜びも含まれていると言える。

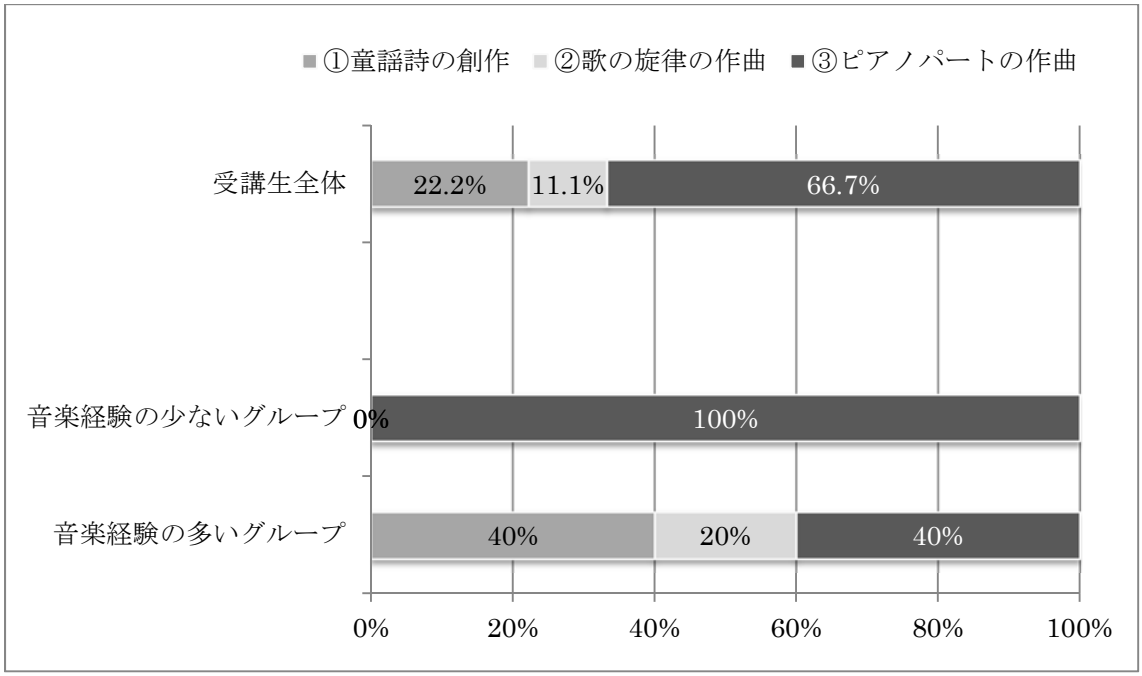

図１　困難度割合グラフ

3.3. 童謡詩に関する質問の集計結果とその考察

困難度と満足度の調査以外では、童謡詩について尋ねた。(→アンケート【問３】) “あなたの創作した童謡詩の題材(テーマ)は主に何に基づいたものだったと考えますか？”という質問に対し、以下の５つの選択肢の中から選んで答えてもらった。

Ａ．自分のこどもの頃の体験や思い
Ｂ．幼稚園教育実習、保育実習でこどもと触れ合った時の経験や思い
Ｃ．自分の体験とは離れた空想の世界や物語
Ｄ．２回生の時の自分が感じていたこどもへの願い
Ｅ．その他

その結果、A.33.3%(3 名)、B.11.1%(1 名)、C.44.5%(4 名)、D.11.1%(1 名)、E.0%(0 名)という集計結果を得た。最も多い回答だったＣに属する童謡詩には、“四季を旅する風の様子を描いたもの”や、“魔法のお砂糖を掛けることによってあらゆるものがお菓子になるメルヘンの世界を表現したもの”など様々な内容があった。次に多かったＡに属する童謡詩には、“おかあさんと一緒に食べるお菓子の楽しさを表現したもの”や、“目覚まし時計を主役にした朝の様子を描いたもの”など、自分自身のこどもの頃の体験や思いをベースにした様々な内容があった。後者の童謡詩は目覚まし時計を擬人化した書き方がなされており、若干Ｃの要素も含んではいるが、作者のこどもの頃の体験がベースになっているため、作者自身がＡに分類して回答している。これらのＡとＣで全体の 80%近くを占めている。それ以外の選択肢では、Ｂには“「お風呂嫌いのこどもが楽しくお風呂に入れるように」という願いを込めて創作したもの”、Ｄには“「野菜嫌いのこどもが一口でも野菜を食べてくれるように」と願って作ったもの”という内容の童謡詩が属しており、共に教育的な意味合いを含んだ願いが込められた内容になっている。このように、すべての童謡詩は、こどもと接する機会が多く、こどもへの愛情に満ち溢れている者にしか作れない素晴らしい詩ばかりで、指導者でありながら、いつも受講生の多彩な感性や表現力には感心させられている。

3.4. アンケート結果にみる困難度の高い創作段階について

受講生へのアンケートでは、授業で童謡を創作した際の３つの段階（①童謡詩の創作、②歌の旋律の作曲、③ピアノパートの作曲）のなかでどの段階を最も困難に感じたかを尋ねた。(→アンケート【問７】) その集計結果は図１で帯グラフを用いて表した。最上段の帯グラフで示したとおり、①22.2%(2 名)、②11.1%(1 名)、③66.7%(6 名)となり、圧倒的に「③ピアノパートの作曲」を最も困難に感じた受講生が多かった。さらに、この設問の回答結果を音楽経験の少ないグループに限ってみてみると、グループ 4 名全員が③を最も困難であると回答してり、図１の中段の帯グラフで示したように、グループ全体の 100%を占めていた。ちなみに、音楽経験の多いグループで③と回答した者はグループ

全体の 40%(2 名)に留まっており、その他の回答では「①童謡詩の創作」が 40%(2 名)、「②歌の旋律の作曲」が 20%(1 名)となっていた。このように、音楽経験が少ない者ほどピアノパートの作曲を困難に感じていることがアンケート結果からもわかる。

音楽経験の多い者はその経験の中で多くの音楽と出会っており、その積み重ねによって自然に音楽の和声感覚が身に付いていく。そして自分が作曲する際にもその和声感覚が生き、それほど無理なくピアノパートの作曲ができることが多い。一方、音楽経験の少ない者は、その和声感覚がまだ充分身に付いていないので、自分でピアノパートの作曲をする際にかなり困難を感じるケースが多くなる。このことは筆者自身、授業で指導する際にも実感として感じており、特に音楽経験の少ない受講生に対して作曲上の様々なアドバイスを出すことが多い。

3.5. 全体的考察と今後の課題

４年間の取り組みは試行錯誤の連続で、特に１年目や２年目は指導方法を模索しながらの授業であったが、今回実施した「授業内容アンケート」において、その頃の受講生を含め総じて授業内容への満足度が高かった。また、受講生全員が自分の創作した童謡の出来に満足していたことは、筆者にとって、今後の授業を行う上での前向きな原動力となり得る結果であった。

しかし、今後の課題も明らかになった。元々感じてはいたことであったが、今回行った困難度のアンケート調査によって、音楽経験の少ない受講生が創作作業に対して想像以上の困難を感じていたことがデータ面からも明白になった。音楽経験の少ない受講生に対して、今後さらに有効な指導方法を見つけていく必要がある。このことは別の観点からも必要になってくる。音楽経験の少ない受講生への作曲面での指導は他の受講生に比べてより多くの時間が必要になるため、受講人数が多い場合には 90 分授業の時間配分という観点からも困難が生じる可能性があるからである。これまでの４年間は、年度ごとの受講人数が最大でも 6 名であったため、個人レッスン形態で実施する場合には 1 人あたり 15 分程度の時間を確保することができ、何とか支障なく進めることができた。しかし、今後もし受講人数が増え、６名を超える年度が出た場合には、授業で個人レッスンの形態をとった場合に１人あたりの充分な時間を確保することが難しくなる。この点からも、音楽経験の少ない受講生のために、より効率的で効果的な指導方法を考えておく必要があるのである。

また、今回、受講生へのアンケート結果の分析を通した研究をしてみて、次のような考えも出てきた。音楽経験の少ない者の困難度が特に高いのは、作曲面での指導方法が少々受講生の感覚に頼り過ぎたものになっていたからなのではないか、という考えである。創作行為である作曲は、感情や想いを表現する行為であるため、もちろん感覚が不可欠ではある。しかしその感覚は音楽経験を積むからこそ身に付くものであり、音楽経験が少ない者は作曲の手がかりとなるその感覚が少ない分、余計に難しく感じられてしまっているのではないか、と思うのである。足らない感覚を補うことができるのは“理論”かもしれない。今の指導方法を活かしつつも、もう少し理論面からのアプローチを加えていくことも必要になってくると思われる。例えば、和音進行（コード進行）の典型的なものをいくつか理論的に学ぶことをきっかけとする方法が考えられる。

柳田[1]は、曲の和音進行のなかにはある程度決まった和音連結があるとし、著書においてその典型的なもの（I→V→I、I→IV→I、I→IV→V→I）を、その和音連結が含まれる有名な童謡の譜面と共に紹介し、説明している。これらを参考にしながら、まず受講生の和音進行への理解を深めていく。そしてその後創作分野へと繋げるために、学んだ典型的な和音連結に乗せて自由に旋律を創作する段階に発展させ、それによって受講生に和音進行の感覚を身に付けてもらうという取り組みも考えられる。このような方法を一例としながら、今後の課題として、本調査結果に基づいた指導方法について考察を続けていきたい。

４．おわりに

保育園や幼稚園において、園のこどもの状況を最も良く知る保育者自身がその状況に即した童謡(音楽)を創作し、その童謡を活かして保育をすることができれば、それほど素晴らしいことはない。こども達にとって身近な存在である自分の先生が作った童謡となると、親しみが湧き、いつも以上に気持ちを込めて音楽表現してくれるようにも思う。残念ながら、今回のアンケート調査では、卒業後、自分の創作した童謡をこどもの前で演奏発表した者は僅か１名しかいなかった。(→アンケート【問 11】) 今後、自分の創作した童謡をこどもの前で演奏発表し、それによってさらにこどもとのコミュニケーションを深めるような保育者が増えてくれることを願いつつ、今後も改善を加えながら「童謡創作」の授業に取り組んで行きたい。

文　献

[1] 柳田憲一：改訂新版 学生のためのピアノ簡易伴奏の要点 .第２章 1. 和音進行.サーベル社, 東京, 17－30 (2013)

論文集「人と環境」Vol. 8 (2015)
大阪信愛生命環境総合研究所編